

# お手軽、手づくり感覚のRC。 だんごの壁で陶芸アトリエを増築

だんごハウスI(URC ver.3)

設計 海建築家工房 海野健三  
撮影 傍島利浩

Part III

戸建て再生  
マンションリフォーム  
セルフビルド



自らも施工に参加したアトリエで作陶する渡辺さん。増築というよりガレージの一部をだんごの壁で囲んだと言ったほうが正確かもしれない。右手に立つ木は樹齢50年の柿の木で、これを避けるように壁をつくった。左にちらっと見える白樺とグレーチングの欄は海野さんがつくったもの。

陶芸にはまってかれこれ20年という渡辺さんの場合、作陶するスペースに苦勞していました。近くのカルチャーセンターで教える傍ら自宅のベランダで風に吹かれながら作品をつくる日々。いつしか自宅にアトリエをつくって自由に作陶できたら：と思うようになっていました。

そんな渡辺さんは以前から建築家の海野さんの作品に魅せられていて、かつて自宅の改築を依頼しかけたことすらありました。今度も、最初はブロックか何かで囲ってやればと軽く考えていましたが、海野さんへの思いが再燃し、依頼することに。建て増しということで一度は断られました。が、「やってみよう」という条件が引き受けてもらえることになりました。そのやりたいことというのがある。その壁。そのころ、他の現場で何気なくコンクリートを丸めていた海野さんが「これでもできるかもしれない」とひらめいたのがきっかけでした。アトリエに充てられたのは家の前のガレージの一角。2台止めていた車を1台にすることで増築のためのスペースを何とか確保しました。施工は家の前に横付けしたミキサー車から下ろされるコンクリートを間髪入れず手で丸め、あらかじめ組んでおいた鉄筋の両側にひたすら積んでいくという「くシンブルなもの。海野さんと渡辺さん、職人さんの4人で取り組んでなんと4日間で完成しました。手づくりだけにだんごがいびつな部分もありますが、そこはそれ。「あそこは自分でつくったんだ」という愛着にもつながら、渡辺さんも大満足の様子です。



3 最初は水道も引いていなかったが、後から手洗い用に配管を引っ張った。  
4 竣工後に渡辺さんが自分でセメントを買ってきて「海野さんのマネをして」つくってみた水受け。焼き物の破片を側面に張った。奥に見える台やテーブルも渡辺さんが手づくりした。  
5 モノを引っ掛けるためのピンやコップを幾つか色を違えて組み込んだ。当初は海野さんの計らいで何か陶芸の作品をと考えていたが、軸葉がつるつるしてくっ付かず断念したそう。



1「建築はもっと身近にあっていいもの」と考える海野さんならではの発想で極限までローテク化されたRCがこのだんご。強度や断熱を考えると、これだけで住宅全体を構成するのはかなり難しいが、例えば親子で休日に塀をつくるなど部分的な応用ならいくらでもできそう。  
2 施工中の風景。右が渡辺さん。人間がやることなのでだんごの大きさやテクスチャーが日によって違い、それが微妙な地層となって現れているがそれも味わい。コンクリートはすぐに固まってしまうので時間との闘いでもあった。

#### DATA

- 増築面積/12.00㎡
- 所在地/東京都江戸川区
- 家族構成/夫婦+子供3人
- リフォーム工事期間/10日間
- リフォーム設計/海建築家工房 海野健三
- ☎03-3648-8486
- 撮影/傍島利浩

#### MATERIAL

- 外部仕上げ
- 屋根/TPガラス
- 外壁/URC (ver.3) 造コンクリート
- 内部仕上げ
- アトリエ
- 床/モルタル金鍍仕上げ
- 壁/URC (ver.3) 造コンクリート
- 天井/TPガラス

